

平成25年度 自己評価表

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標 (学校ビジョン)	学び、輝き、感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《 18歳で自立できる人を育てる 》 ～将来を見とおした今のQOLの向上～
---------------------------	---

今年度の 重点目標	○幼児・児童・生徒の特性に応じた指導の充実に努め、社会に繋がる教育を実践する。 ○特別支援教育の専門性を高め、指導力と授業力の向上を図る。 ○地域支援に努め、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。
----------------------	---

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 (10) 月			
		現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価	改 善 方 策	
一人一人に視点をあてた学習指導の充実	自立活動部	●実態把握の具体的な視点や方法が示され、学習内容への反映のさせ方の事例や研修が充実していたか。	●実態把握の方法は充実してきたが、教職員の3分の1が変わったことで、再度研修が必要なグループと、実践的な研修が必要なグループがある。	●経験の少ない、多いに応じた、実態把握や具体的なアプローチの研修や紹介がなされている。(計6回程度)	●チェックリストや新版K式を活用する研修等の実施。 ●具体的な実践紹介の場を増やし、内容によってグループを分ける研修の実施。	●身体へのアプローチの仕方や発達に即した学習について、グループ分けした研修を複数回実施した。	B	●引き続き、他分掌とも連携しながら必要な研修や紹介を行っている。
	教科等指導部	●児童生徒の客観的データを基にした児童生徒理解(学力と障害との関係)ができたか。 ●客観的データを基に授業改善が行えたか。	●教科指導の研究の筋道はおおよそ共通理解ができたが、研究を生徒一人に絞ったため広がりが少ない。 ●客観的データに基づく公開授業が少なかった。	●授業公開、授業研究会を通して、個々の児童生徒の学力と障害特性の関係が理解されている。 ●客観的データによる学力の把握を個々の児童生徒に広げ、教科等の授業改善に役立てている。	●I型のつまずきチェックリスト(国、数/算)を作成する。 ●授業者支援会議による教科等の授業公開を増やし授業改善に務める。	●I型の学習達成度チェックリスト(国、数/算)を作成中である。 ●授業者支援会議の提案授業を行うとともに、同システムを職員全体で共通理解した。	C	●I型の学習達成度チェックリスト(国、数/算)を完成させ、重複I型の児童生徒に実施し、客観的な実態把握の一助にする。 ●授業者支援会議で提案授業をした経過報告と支援会議による公開授業を行う。
	研究・研修課	●客観的データに基づく実態把握から、将来を見越した必要な力を整理して、目標・学習内容を設定し、指導・支援の工夫ができたか。	●昨年度の取り組みで実態把握に対する教師の意識が高まってきた。今後、客観的データを複数の目で検証しながら、個々にとっての必要な力を見極めていく力をつける必要がある。	●客観的データに基づいて、個々にとっての必要な力を整理する力を養い、目標・学習内容を設定している。	●客観的データをグループごとに検証、評価していく。 ●連携図を活用し、授業のねらいを明確にして取り組む。 ●外部講師を招いた授業研究会を実施し、指導助言を授業改善に活かしていく。	●教育課程別の4グループごとにテーマを決め、毎月校内研究を実施している。事前にチーフ会を開き、進捗状況を確認しながらすすめており、9月上旬には、全体の場でグループの取り組みについて報告会をもった。	C	●客観的データを検証しながら、グループごとに公開授業を行い、評価・改善をしていく。 ●研究のまとめとして、1月24日に外部講師を招き授業研究会を行う。
	指導部	●幼児・児童・生徒の実態をふまえ、伸ばしたい力を共通理解し、指導に活かすことができたか。(給食・人権・保健指導・児生会・環境教育・性教育)	●幼児・児童・生徒一人ひとりの実態をふまえた共通理解はできてきたが、個々の指導法の系統性にかける。	●幼児・児童・生徒一人ひとりの実態をふまえた共通理解ができ、指導に活かすことができる。	●幼児・児童・生徒の実態を共通理解し、各授業実践を記録して残し活用する。(給食・人権・保健指導・児生会・環境教育・性教育)	●各実践の記録はできつつあるが、生徒一人ひとりの実態をふまえた共通理解、連携図の活用が充分と言えず、各授業に十分に活かされていない。	C	●連携図を十分に活用できるよう、型別・学部別・全体で再確認し、今後の授業実践に反映させる。
18歳の自立を見据えた進路指導の充実	進路指導課	●関係機関と連携して福祉制度や社会資源に関する情報を収集し、それらを職員や保護者へ発信ができたか。	●職員や保護者へ福祉制度や地域の社会資源に関する情報を継続的に発信する必要がある。 ●高等部卒業の生活をイメージした各学部間の系統性のある指導が進んできている。	●職員・保護者のニーズを把握し、福祉制度や社会資源に関する情報を収集し発信できている。	●進路指導通信の内容充実に努める。 ●福祉セミナーや施設見学、進路研修会などを実施する。 ●進路指導の手引きを用いた研修会を実施したり授業内容検討の際に活用したりする。	●福祉セミナーや施設見学、進路通信の発行などを通して社会資源に関する情報発信に努めた。 ●進路自主研修と題し基礎的な福祉サービスに関する研修会を実施した。制度改正などあるため社会資源に関する情報は継続して発信していく必要がある。	C	●子どもたちの卒業後の姿や、現在利用しているサービスの仕組みについて理解するため、福祉サービス等に関する基礎的な研修会を設定する。 ●進路通信の内容充実に努め、社会資源に関する情報収集・発信を継続して行う。
ニーズに対応できる専門性の向上	自立活動部	●教材・支援機器・自助具等についての情報が充実し、使用しやすい環境になっていたか。	●教材や支援機器等を置く場所を整備中である。また、何があって、ニーズに対してどの様に使うのかといった情報が不足している。	●教材・支援機器等の置き場所がわかりやすくなっており、必要な物が使いやすい状態になっている。	●教材や器具、支援機器等を実際に使う演習の実施。 ●教材・支援機器・自助具の整備。 ●不足している教材・支援機器・自助具の把握と補充。	●教材庫を整備し、カテゴリーごとに配置した。通信や研修で紹介も行っている。	B	●引き続きニーズを把握しながら、不足気味の教材や新たな教材を補充していく。
センター的機能の推進	支援部	●肢体不自由教育の専門性を生かし、地域のニーズに応じた支援ができたか。	●発達や障がい特性をふまえた支援について、専門的な意見や助言を求められている。	●地域支援活動や教育相談活動を円滑に行い、ニーズや課題に応じた効果的な支援を行っている。	●相談内容を整理し、ニーズに応じた支援容や支援の見直しを提案する。 ●関係機関や特別支援学校との連携による情報収集や支援を進める。	●主訴や主訴に対する支援を明確にし、関係機関と連携を取っている。 ●地域のニーズに応じた支援について、校内での意識が不十分。	C	●地域への支援の在り方の見直し(主訴・支援の明確化、自助力の評価、関係機関へのつなぎ) ●情報発信と併せ、「センター的役割」への理解を促す。
社会に繋ぐ活動推進	交流教育課	●交流及び共同学習を通して互いを認め合ったり、学び合ったりすることができたか。 ●地域の人々に対して本校の教育活動について情報発信することができたか。	●本校・相手校ともニーズに合ったねらいを設定することで交流活動は充実してきたが、間接交流による継続的な交流活動は十分ではない。 ●地域交流では実際のふれあいではできたが、より効果的な理解・啓発を図るための手立てが不十分であった。	●交流及び共同学習を通して互いに認め合ったり学び合ったりする姿が見られている。 ●地域の人々に本校の教育活動について理解を深めてもらい交流活動ができている。	●交流学习に向けて双方のニーズを共通理解し、活動内容のさらなる充実を図る。 ●打ち合わせ会や反省会の機会を捉え間接交流の促進を図る。 ●地域・社会の人々に向けた事前研修を行う。	●事前研修や打合せなどを行い、双方の目標や実態に合わせた活動を確認しよりよい交流を目指している。 ●事前に自己紹介の掲示物やDVD、事後は感想や手紙などを交換し間接交流の促進に努めている。	C	●打合せでは相互の目標や積み上げを確認し、さらに充実した交流及び共同学習に努めていく。 ●11月の地域ふれあい交流当日は地域の方々に向けた研修を行い、本校への理解を深めてもらう機会を持つ。
	学習情報部	●支援技術(学習における支援とコミュニケーションにおける支援)に関わる情報が利用しやすい環境にあり、積極的に実践している。 ●学校ホームページの更新頻度が課業日において全て行われ、記事投稿に関わる教職員が30%をこえている。	●支援技術に関する研究がまだ深まっておらず、幼児、児童、生徒のニーズに対応した支援技術の活用、情報提供が不十分である。 ●学校ホームページは随時更新されているが、記事更新に関わる教職員が少ないため、まだ幅広い内容の記事紹介とはなっていない。	●ニーズに応じた支援技術に関する情報が整理され、実践に活かされている。 ●学校ホームページによる多面的な情報公開がなされ、本校教育への理解と啓発がはかられている。	●支援技術の活用講習会、情報提供のためのデータベース整理、iPadを中心としたICT活用実践研究をすすめる。 ●学校ホームページ記事作成講座を複数回開き、記事を投稿できる教職員を増やすとともに、記事作成を促す企画を設けることで記事投稿件数を増やす。	●iPadを中心としたICT活用実践は着実に進められている。実践の整理が必要である。 ●学校ホームページ記事作成講座を夏季休業中に3回開いた。記事作成スキルを獲得した職員は増えているが、まだ十分ではない。	C	●iPadの活用実践をまとめ、今後の活用への道筋を立てるとともに、情報提供を今後も進める。 ●今後もHP記事作成講座を複数回開き、技術の普及を図る。また、特集記事企画を設け、記事投稿を促していく。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]